様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月 ２０ 日現在

機関番号：３２６６４
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｋ０２４０５

研究課題名（和文）戦争文学／表象にみるジェンダーと記憶の政治

研究課題名（英文）The politics of gender and memory in the literary representation of war.

研究代表者
中谷　いずみ（NAKAYA, Izumi）

二松學舍大學・文学部・准教授

研究者番号：１０３６６５４４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,800,000円

研究成果の概要（和文）：戦争をめぐる文学／表象の分析を通して、そこで描かれるジェンダー・セクシュアリティに関する事柄が、土台となる権力関係を不可視化し、〈他者〉を主流言説の規範内に組み込み包摂し得る存在に変形するという機能を担う場合があることが分かった。またそうした権力や〈他者〉の不可視化や変形が、その時期の集合的記憶形成や歴史認識形成と深く結びつくものであることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
研究成果から、ジェンダーやセクシュアリティの観点のみのアプローチでは、戦争をめぐる文化政治の問題群を捉えきれないことが見えてきた。文学に描かれた女性表象や異性愛規範、セクシュアリティが物語上どのような機能を果たし、他者表象に関与するのか、そしてそれらがどのような歴史認識や集合的記憶の再生産と関わるのかというアプローチが重要である。この方法は、今日のさまざまな文化政治と文学の考察にも応用できるものであり、学術的社会的に意義のあるものである。

研究成果の概要（英文）：My studies pointed that representation of gender and sexuality in modern Japanese literature often makes power relations invisible, and distort image of 'Others' in order to adapt to the norms of cultural intelligibility. They connect to the formation of historical perception and collective.

研究分野：日本近現代文学

キーワード：ジェンダー　セクシュアリティ　戦争文学　他者表象

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

アジア太平洋戦争は、忘れることのできない出来事として、文学作品において繰り返し語られ表象されてきた。近年においては、戦後社会の形成において戦争をめぐる語りが果たした役割について、調査研究が進められている。しかし、文学における記憶の政治を問題化する際、ジェンダー・セクシュアリティの観点からアプローチしたものはまだ多くないという状況があった。

２．研究の目的

戦争文学／表象と集合的記憶の関わりについてジェンダー規範や異性愛秩序の観点から明らかにすることを目的とした。誰の視点によるどのような戦争文学／表象が「戦争」の記憶の定型として社会で流通するのか、そこにジェンダーやセクシュアリティはどのように関わるのかを明らかにすることを目的とした。

３．研究の方法

戦争をめぐる文学／表象を取り上げ、ジェンダースタディーズやフェミニズム批評、クィア理論などの成果を用いて調査分析する。具体的には以下の通り。

（1）戦後に書かれた戦争をめぐる物語において、ジェンダー規範や異性愛規範がどのように描かれているかについて、またそれらがどのように受容されたかについて言説分析研究を行う。

（2）男性視点で語られる戦争をめぐる記憶の物語に書き込まれた身体的要素や暴力の描写について、ホモソーシャルやホモエロティシズムの観点から分析を行い、それらがどのよう受容されたかについて言説分析を行う。

４．研究成果

（1）「戦争への抵抗と責任 ―松田解子『地底の人々』と強制労働の記憶―」（『社会文学』第 46 号、2017 年）では、1950 年代前半の左派言説における戦争の記憶、特に花岡事件に代表される戦時下の強制連行／労働を題材とする松田解子の長編小説「地底の人々」について論じた。労働者の国際的連帯を訴える左派言説の基盤のうえに戦時の帝国日本の暴力をいち早く訴えるこの作品が描かれ得たことと、しかし戦時の中国人強制連行／労働という題材の小説にまでも、日本人労働者の抵抗という要素を求める声が存在したこと、1950 年代前半の左派による国際連帯志向と戦前戦時の記憶がどのように絡み合っていたのかについてなどについて、当時の中国・台湾政府と日本政府との交渉を背景としながら考察した。

また同作品が単行本化される際、初出にはなかった、花岡出身の娘と強制連行されてきた朝鮮人労働者男性との恋愛というエピソードを挿入することで、日本人労働者／朝鮮人労働者の対立を強調しないようなつくりになっていること、ジェンダー規範に逸脱しない娘を配置することで支配者イメージとはほど遠い存在として日本人労働者を描くことが可能になっていることを指摘した。ここから分かるのは、恋愛や女性ジェンダーの表象が植民地をめぐる支配―被支配の印象を弱める役割として用いられ得るということである。

（2）「歴史の所在／動員されるホモエロティシズム―大江健三郎「われらの時代」にみる戦争の痕跡」（『戦後日本を読みかえる３　高度経済成長の時代』2019 年）では、1960 年前後の青年を描いた大江健三郎の長編小説「われらの時代」を通して、在日朝鮮人青年に割り当てられた戦争の記憶語りとホモエロティックな表象が果たす役割について、分析を行った。「戦時」「戦後」といった過去との時間的断絶／接続が語られるとき、ホモフォビックに配置されたゲイの欲望がどのように動員されるのかという点に焦点化した論考である。

テクストにおいてエロティックな修辞によって表象されるホモソーシャルな世界は、ホモセクシュアルな欲望を呼び寄せつつそれを排除する。テクストは青年たちのホモソーシャルな世界への参入の試みと挫折を描くのだが、その中で在日朝鮮人青年のみが過去の戦争の記憶を抱えた人物であり、歴史を免責されたかのように〈現在〉を生きる他の青年たちを相対化し得る存在である。しかしテクストは、この在日朝鮮人青年をも〈現在〉の若者たちに包摂され得る〈他者〉として描く。その際に用いられるのがホモセクシュアルな欲望なのである。「わられの時代」は、在日朝鮮人青年に戦前・戦時・戦後の暴力の歴史を一身に負わせ、ホモフォビックな志向によってスティグマ化しつつ〈現在〉の〈日本〉に違和感を生じさせない〈他者〉として彼を描く。それによって 1960 年前後の時点で戦争と断絶された〈現在〉として「戦後」を認識し得たのは誰かという、「戦後」をめぐる歴史認識の枠組み形成に関わる大きな問題が不可視化されてしまったといえるだろう。ここから分かるのは、〈他者〉を受け入れ可能な存在へと変形する際に性表象が動員され得るということである。

（3）『〈原爆〉を読む文化事典』（川口隆行編、青弓社、2017）の項目執筆や大田洋子の小説「半人間」の調査分析を通して、女性被爆者をめぐる語りや表象について、ジェンダーの観点から考察を行った。受動性や純粋さ、若さといった女性ジェンダー規範と救済対象を規範化する言説との結びつきが、文学やメディアにおける女性被爆者表象を再生産し続けてきたことを指摘した。

そのうえで大田洋子の作品群が、そうした規範から逸脱するために表象の場から零れ落ちて

きた女性たちの生を書き続けてきたこと、またその女性たちは、街の復興という進化を相対化し得る存在としてテクストに刻み込まれていることに注目した。しかし一方で、そうした被爆女性のステロタイプを打ち破る女性たちの世界と復興を急ぐ街という対照的構図は、その二分法に当てはまらない人びと、例えば在韓被爆者などの時空間を不可視化するものでもある。その点からいえば、ジェンダー的観点からの世界の相対化が、戦前戦時の空間認識や人の移動を忘却したかのような「戦後」における歴史認識の形成に寄与してしまったといえるだろう。なお、大田洋子「半人間」の分析は『戦後文学の〈現在形〉』（2020 夏刊行予定）に掲載予定である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 中谷いずみ	４．巻 98
２．論文標題 空白の「文学史」を読む―プロレタリア運動にみる性と階級のポリティクス	５．発行年 2018年
３．雑誌名 日本近代文学	６．最初と最後の頁 132-145
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.19018/nihonkindaibungaku.98.0_132	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 中谷いずみ	４．巻 46
２．論文標題 戦争への抵抗と責任―松田解子『地底の人々』と強制労働の記憶―	５．発行年 2017年
３．雑誌名 社会文学	６．最初と最後の頁 45-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計4件（うち招待講演　0件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 中谷いずみ
２．発表標題 空白の「文学史」を読む―”政治と文学”にみるジェンダー・ポリティクス
３．学会等名 日本近代文学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 中谷いずみ
２．発表標題 階級闘争と女性解放の夢
３．学会等名 「アジアの中の日本文化」研究センター国際シンポジウム「1930年前後の文化生産とジェンダー」（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 中谷いずみ
２．発表標題 戦争への抵抗と責任―1950年代の労働と文学
３．学会等名 社会文学会
４．発表年 2016年

１．発表者名 中谷いずみ
２．発表標題 「アジアの連帯」と強制連行の記憶／記録―松田解子『地底の人々』
３．学会等名 ワークショップ「東アジア冷戦と〈移動〉―〈強制労働〉の経験と記憶
４．発表年 2017年

〔図書〕　計3件

１．著者名 中谷いずみ　他	４．発行年 2019年
２．出版社 臨川書店	５．総ページ数 163-194
３．書名 戦後日本を読みかえる３　高度経済成長の時代（第6章）	

１．著者名 川口 隆行	４．発行年 2017年
２．出版社 青弓社	５．総ページ数 396
３．書名 〈原爆〉を読む文化事典	

１．著者名 宇野田尚哉・川口隆行・坂口博・鳥羽耕史・中谷いずみ・道場親信	４．発行年 2016年
２．出版社 影書房	５．総ページ数 368
３．書名 「サークルの時代」を読む―戦後文化運動研究への招待	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考